一五、一〇、七日

# 株式ノ額面超過額ト所得税問題

一、株式ノ額面超過額ハ、法人所得ノ計算上、益金ニ算入スヘカラス、換言スレハ額面超過額ニ對シテハ、所得税ヲ課スヘキモノニ非ストノ議論、最近更ニ擡頭シ来リタルモノノ如シ、然レトモ本件ハ大正八年第三十五號行政判決（大阪商船會社對大阪税務監督局長行政訴訟事件）ニ依ツテ、既ニ法律的ノ解決ヲ與ヘラレタル問題テアツテ、其ノ後、何等争訟判決ニ変更ヲ加フヘキ事情モ起ラス、又商法其ノ他ノ関係法規ニモ改正ヲ

加ヘラレタル所ナキカ故ニ、更ニ問題トスヘキ價値ナキモノト思料セラルルモ、今日問題トナッテ居ル關係モアリ、額面超過額ニ對シテ、所得税ヲ課スヘキ理由ニ付テ、聊カ述ヘテ見タイト思フノテアル。

二 先ツ最近ニ於テ、株式ノ額面超過額ニ對シテ所得税ヲ課スヘキモノニ非ストノ、議論ヲ爲ス者ノ意見ヲ見ルニ大要左記ノ通テアル。

(一) 株式ノ額面超過額ハ、會社創立ノ際得タルモノナルト、將又既設會社カ増資ノ際ニ得タルモノナルトヲ問ハス、株式金額ト同樣ニ、株

式引受人ノ出資ニ係リ、株式自身ト等シク、後日ニ於テ利益ヲ生スヘキ基本金額、即チ資本ノ性質ヲ有スルモノテアツテ、営利的活動ニ因リテ生シタル利益其ノモノニ非ス、換言セハ額面超過額ナルモノハ元本テアツテ果実ニ非ス、随テ所得税ヲ課スヘキモノニ非ス。

(二)商法ノ上ニ於テ、株式ノ額面超過額ニ付キ、株式申込人ヲシテ、株式申込證ニ其ノ引受價額ヲ記載セシムルコト(商法第一二六條三項、同第一二九條)、又額面超過額ノ拂込ハ、其ノ株式ノ第一回ノ拂



大藏省

込ト、同時ニ之ヲ爲サシムルコト（商法第一二九條二項、同第二一九條）、又其ノ拂込ヲ爲サザル引受人ヲシテ、失權セシムルコト（商法第一三〇條二項、同第二一九條）ノ如キ規定ヲ設ケタルハ、明ニ株式額面超過額ヲ以テ、株式其ノモノト同一視スルモノテアリ、畢竟出資金タルノ性質ヲ有スルモノト認メタルモノナリ。

(三) 所得税法第四條ハ「各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額」トハ、法人ノ作成スル各營業年度ノ損益計算書ニ掲ケラ



大藏省

ルヘキ、總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ト同意味ナルヘク、

從テ各營業年度ノ貸借對照表ニ於ケル、負債ノ部ノ最後ニ揭ケラルル、利益金ト一致スヘキモノナルコト疑ナシ、然ルニ株式ノ額面超過額ハ、之ヲ法定準備金ニ組入ルルコトヲ原則トシ、而シテ法定準備金ハ損失ヲ塡補スル爲ニハ、之ヲ使用スルコトヲ得ルモ、配當及賞與等ニ充當處分スルコトヲ得ス、即チ普通ノ利益金ト同性質ノモノニ非ス、換言セハ此ノ組入超過額ハ、貸



大藏省

0000 0320
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

借對照表中法定準備金ナル一ノ控除科目ヲ為シ、債務及資本金ト共ニ、其ノ負債ノ部ニ掲ケラレ、依テ以テ利益ヲ算出スルノ用ヲ為スモノニ過キス、随テ額面超過額夫自体ニ於テ利益ニ非サルコト疑ヒナシ。

（四）株式ノ額面超過額ハ、商法第一九四條第二項ノ規定ニ依リ、會社ハ其ノ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ、法定準備金トシテ積立ツルコトヲ要シ、絶体ニ之ヲ株主ニ配當スルヲ得サルモノナリ、而シ



大藏省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0321

テ額面超過金額ニ對スル所得税額ハ、超過所得税等ノ関係ニ依リ、相當多額ニ上ルヘキハ明カナル事実ナルヲ以テ、其ノ税金ヲ納付スルコトニ依テ勢ヒ會社ノ利益ハ著シク減少ス、隨テ正當ノ計算ヲ為ストキハ、従来ノ配當率ヲ維持スルコトハ出来ナイノテアルカ、會社ノ配當率ヲ低下スルコトハ、會社ニ取リテ甚タ苦痛トスル所ナルカ故ニ、已ムヲ得ス仮拂金等ノ名義ヲ以テ、一時資産トシテ之ヲ据置キ、其ノ後数年ニ亘リテ、順次

消却スルノ方法ヲ採ルニ至ル、斯ノ如キハ額面超過額ニ對シ所得税ヲ課税スル結果生スルモノニシテ、極端ニ論スレハ會社ニ對シ、虚偽的計算ヲ爲サシムル原因ヲ與フルモノテアル。

(五)株式ノ額面超過額ニ對スル内外ノ學説及諸外國ノ判例ハ概ネ非課税説ニシテ殊ニ普國高等裁判所ノ如キハ、千九百二年六月二十五日其ノ聯合判決ヲ以テ、従来ノ判例ヲ変更シテ通説ニ従ヒタル等ノ事例アリ。

三 株式ノ額面超過額ハ、資本ノ性質ヲ有スルモノテアッテ、随テ利益ノ性質ヲ有セサルカ故ニ、所得計算上除外スヘシトノ意見アルモ、所得税法第四條第一項ノ「総益金」トハ、「資本ノ拂込以外ニ於ケル會社ノ純資産ヲ増加スル原因ト為ルヘキ一切ノ事実」ヲ指スモノナルコトハ、行政判例等ニ於テモ既ニ認メタル先例テアル。而シテ額面超過額ハ決シテ會社ノ資本ニ非ス、且ツ資産ノ増加ヲ来スヘキ収入ナルコト疑ナキヲ以テ、特別ノ法文ナキ以上ハ、之ヲ総益金ヨリ除外スルノ理由ナキモノト謂ハサ

一五、四（富井納）

大蔵省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0324

ルヘカラス。抑モ株式會社ノ資本ナルモノハ、必ス之ヲ株式ニ分ツコトヲ要スルカ故ニ(商法第一四三條)、其ノ分タレタル株式金額ノ合計ハ、即チ會社資本ノ総額ニシテ、株式金額以外ニ資本金ノ存在スルコトヲ認ムルヲ得ス。商法法文ノ形式上然ルノミナラス、其ノ実質ニ於テモ亦同様テアル、株式金額ノ拂込ハ、之ヲ資本トシテ生産利殖ノ元本ヲ、構成セシムルノ目的ニ出ルモノナルヲ以テ、損益ノ観念外ナルコト勿論ナルモ、額面超過額ハ之ヲ営業元本タラシムルノ観念毫モナク、只單ニ

一五、四(富井納)
大藏省

會社ノ株主タラムトスル者ノ支出スル、株金以外ノ特別ノ對價ト認ムヘキモノテアル。

独逸商法ノ如ク、此ノ額面超過額全部ヲ必ス準備金ニ組入レシム「且之ニ對シテ一定ノ利子又ハ配當金ヲ交付スル」法制ノ下ニ於テハ、其ノ規定ヲ綜合觀察シテ、法律カ營業元本タルノ性質ヲ有スルモノト認メタルモノナリトシ、從テ之ヲ資本ナリトスルノ説ヲ生スヘシト雖、我商法ニ於テハ資本ノ性質ヲ有セサルモノト爲シタルコト疑ナシ、



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0326

即チ

(一)法定準備金ニ充當シタル残額ヲ配當スルコトヲ得セシメタルハ資本金ニ非スト認メタルカ爲ナリ

(二)特ニ之ヲ準備金ニ組入ルコトヲ要スト規定シタルモ亦資本金ニ非サルコトヲ前提ト爲セルカ爲ナリ若シ資本金ナリトセハ法文ヲ俟タスシテ之ヲ保留スルコト當然ニシテ如何ナル場合ニ於テモ之カ配當ヲ許スヘキモノニ非ス



一五、四（富井納）

(三)株金ハ營業元本構成ノ要素ナルカ故ニ利益配當及會社解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産分配ノ標準トナルモ額面超過額ハ之ニ反シ其ノ拂込ニ依リ株主ト爲リタル後ニ於テ會社ニ對シ何等ノ負担ヲ爲サシムルコトナシ

以上ハ皆我カ商法カ額面超過額ヲ以テ營業元本又ハ基本金額ト認メサルノ證左ラアル。

四 商法ノ上ニ於テ株式申込證ニ其ノ引受價額ヲ記載セシムルコト、

一五、四（富井納）

大藏省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0328

額面超過額ノ払込ヲ其ノ株式ノ第一回ノ払込ト同時ニ之ヲ為サシムルコト、又払込ヲ為サザルトキハ其ノ引受人ヲシテ失権セシムルコト等ヨリ推論シ、額面超過額ハ株金ト同一性質ヲ有スルモノトノ意見アルモ之レ単ニ其ノ申込又ハ払込ニ関スル手続カ、株金ト同一ナリト云フニ過キサルモノテアッテ、之ニ依リテ額面超過額カ資本性ヲ有スルヤ否ヤノ本質カ、全然同一ナリトハ謂フヲ得サルモノテアル。

五　所得税法第四条ノ「総益金ヨリ総損金ヲ控除シタル金額」ト各営業



大蔵省

年度ニ於テ會社ノ作成スル損益計算書、貸借對照表ニ掲上
セラルヘキ利益ノ額トハ、相共ニ一致スヘキモノナルコト疑ナク而シテ株式ノ
額面超過額ハ、商法ノ規定ニ依リ之ヲ法定準備金ニ、組入ルルコトヲ
原則トスルヲ以テ、會社ノ作成スル損益計算書、貸借對照表ニ之
上ノ利益金中
ヲ包含セス、隨テ額面超過額ハ夫レ自体ニ於テ他ノ債務及資本
金ト同様ニ利益ニ非ストノ意見アルモ。會社カ其ノ収入シタル株式
ノ額面超過額ヲ、商法ノ規定ニ依リ準備金ニ組入ルル方法ハ、必スシ

モ之ヲ直ニ貸借對照表上ハ準備積立金中ニ組入ルヘシトノ法規上ノ根據ナク、又実際ニ於テモ之ヲ一旦損益計算書ノ利益ニ組入レ、然ル後利益ノ處分トシテ準備積立金中ニ、組入ルルモノモアリ、兎ニ角其ノ何レタルヲ問ハス、結局ニ於テ會社ノ收入シタル額面超過額中、準備積立金トシテ積立テヲ要スル、一定金額ヲ積立ツレハ足ルモノテアツテ、如何ナル整理方法ヲ取ルモ可ナルモノト解スヘキヲ相當トス。故ニ額面超過額カ既ニ會社ノ資本ニ非ス、會社ノ利益ナリ



大藏省

トセハ、會計整理ノ方法如何ニ依ッテ、其ノ本質ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス、要スルニ準備積立金ニ組入レタル金額ハ、一旦會社ノ利益トシテ収入セラレタルモノナルカ（モノ）積立金ト爲ルモノテアッテ、會社ノ利益ヨリ成ラサル準備積立金ナルモノヲ、商法ノ規定上認ムルコトヲ得サルモノテアル。

六株式ノ額面超過額ハ仮リニ會社ノ利益ナリトスルモ、會社通常ノ利益ト異ナレルカ爲メ、額面超過額ノ収入アリタル年度ノ利益額

一五、四（富井納）

大藏省

ハ相當多額ニ上リ、隨テ此ノ年度ニ對スル所得稅モ又異常ニ多額ニ上ル、然ルニ一方其ノ收入シタル額面超過額ハ、其ノ全額ヲ準備積立金ニ組入ルルコトヲ要シ一厘ト雖モ之カ使用ヲ許サス、爲メニ會社ハ額面超過額ニ對スル所得稅ヲ、通常ノ利益ヲ以テ支辨セサルヘカラサル關係上、會社ノ利益率ハ著シク低下シ前期同樣ノ配當ヲ維持スルコトヲ困難ナラシムル場合往々アリ、事業上ノ損失ニ基カス單ニ所得稅ノ納稅額カ、多額ニ上リタル爲ニ配當率ヲ低下ス

ルカ如キコトハ、會社當局トシテ到底爲シ得ヘキコトニ非サルヲ以テ、勢ヒ會社ハ額面超過額ニ對スル所得稅ヲ、一時仮拂トシテ整理シ漸次消却スルノ方法ヲ取ル、斯ノ如キハ額面超過額ニ對スル所得稅ノ課稅カ、嚴正ナルヘキ會社ノ計算ヲシテ虛僞ニ導クモノナルノミナラス、課稅カ會社經濟ヲ圧迫スルモノテアッテ、此ノ點ヨリ見ルモ額面超過額ニ對シ、所得稅ヲ賦課スヘキモノニ非ストノ意見アルモ、斯ノ如キハ商法ノ規定ニ於テ、株式ノ額面超過額ノ收入額全部ヲ、準備積、



大藏省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

立金ニ組入レシムル結果生スル缺点テアツテ、寧ロ此ノ場合ニ於テハ、額面超過額ニ對シテ要シタル經費或ハ一定割合ノ金額ヲ、控除シタル殘額ヲ準備積、立金ニ組入レシムルヲ以テ積立ノ目的ヲ達スルモノト認メラレルノテアル。（獨逸商法ハ收入額面超過額ヨリ經費ヲ控除シタル殘額ヲ積立テシム）

七要スルニ株式ノ額面超過額ハ我國現行法制ノ下ニ於テハ、營業上ヨリ生スル利益ト同シク、會社ニ於テ株主ニ配當スル等、自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノテアッテ、之ヲ資本ト認ムル何等法律上ノ根據



大藏省

ナク、只額面超過額カ、營業上ヨリ生スル利益ト異ナル所ハ、會社ノ準備金カ未タ資本ノ四分ノ一ニ達セサル場合ニ於テ、營業上ヨリ生スル利益ハ商法第百九十四條第一項ニ依リ、其ノ二十分ノ一以上ヲ之ニ組入ルルヲ以テ足ルモノナルモ、額面超過額ハ同條第二項ニ依リ、準備金カ資本金ノ四分ノ一ニ達スル迄之ニ組入レサルヘカラサルノ相違アルノミナリ、而シテ額面超過額ハ商法ニ於テ之ヲ資本ト称セス、資本ニ関スル規定ヲ適用セス、會社ノ自由處分ニ委シタルコトモ當


一五、四（高井納）
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0336

業上ヨリ生スル利益ト、準備金ニ組入ルヘキ限度ヲ除キテハ、何等異ナル所ナキ以上所得税法ノ適用ニ付テモ、額面超過額ハ之ヲ資本ト認メサルヲ相當トシ、随テ之ニ対シ所得税ヲ課スルハ當然テアル。仍普國行政裁判所ノ判例ヲ援用シテ、額面超過額ニ對シテ所得税ヲ課スヘキモノニ非ストノ意見アルモ、彼我法制ヲ異ニシ直チニ取ッテ立論ノ根據ト爲スヘキモノニアラス。

## 理由

株式會社カ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於ケル額面超過額カ會社ノ株主タラントスル者ノ出資ナルコトハ原告ノ主張スル所ノ如シ然レトモ商法ニ於テ資本ト稱スルハ株式券面額ヲ指シ額面超過額ハ其ノ中ニ包含セス從テ額面超過額ハ株主總會招集ノ請求、利益若ハ利息ノ配當請求清算ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ分配請求其ノ他社員權ノ行使ニ何等影響スル所ナキト同時ニ營業上ヨリ生スル利益ト同ク會社ニ於テ株主ニ配當スル等自由ニ之ヲ處分スルヲ得ヘク何等資本ニ關スル制限規定ノ適用ヲ受クルコトナシ唯額面超過額カ營業上ヨリ生スル利益ト異ル所ハ會社ノ準備金カ未資本ノ四分ノ一ニ達セサル場合ニ於テ營業上ヨリ生スル利益ハ商法第百九十四條第一項ニ依リ其ノ二十分ノ一以上ヲ之ニ組入ルルヲ以テ足ルモノナルニ額面超過額ハ

大正八年第三十五号 行政判例

大藏省

0000 0338
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同條第二項ニ依リ準備金カ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄之ニ組入レサルヘカラサルノ相違アルノミ而シテ額面超過額ハ商法ニ於テ之ヲ資本ト稱セス資本ニ關スル規定ヲ適用セス會社ノ自由處分ニ委シタルコトモ營業上ヨリ生スル利益ト前示準備金ニ組入ルヘキ限度ヲ除キテハ何等異ル所ナキ以上所得税法ノ適用ニ付テモ額面超過額ハ之ヲ資本ト認メス同法第四條第一項ノ總益金中ニ包含セラルルモノト解スルヲ相當トス然レハ被告カ原告會社ノ取得シタル額面超過額ヲ其ノ所得金額中ニ算入シタルハ不當ナリト云フコトヲ得ス原告ハ普國行政裁判所ノ判例ヲ採用シテ論辯スルモ右判例ハ普國所得税法ニ於テハ營業上ヨリ生スル會社ノ所得ニ非サレハ所得税ヲ課セサルモノナルコトヲ前提トシ其ノ前提ノ下ニ額面超過額ハ營業上ヨリ生スル會社ノ所得ト認ムヘカラス從テ之ニ對シ所得税ヲ賦課スヘキモノニ非スト判示シタルニ過キス而モ

我所得税法第四條第一項ハ必シモ營業上ヨリ生スル所得ニ非サレハ課税セサルノ法意ナリト解スルヲ得サルノミナラス我商法ニ於テハ額面超過額ト雖必シモ常ニ準備金ニ組入ルルコトヲ要スルモノニ非スシテ配當シ得ルモノナルコトハ前ニ説明シタルカ如ク之ヲ獨逸商法ニ於テ營業上ヨリ生スル所得ニ非サレハ配當スルコトヲ許サス額面超過額ハ之ヲ配當スルコトヲ得スシテ常ニ其ノ全部ヲ準備金ニ組入レサルヘカラサルモノニ對比シ其ノ間大ニ相違スル所アルカ故ニ彼我同一ニ論斷スルコトヲ得サルモノトス又原告ハ會社ニ對スル所得税ハ遡源徴收ノ主義ニ依リ各株主ニ對シテ課税スルニ代ヘ便宜上會社ニ賦課スルモノナルカ故ニ株主カ株主トシテ會社ニ醵出シタル額面超過額ニ對シテハ所得税ヲ賦課スヘカラサルモノナリト主張スルモ所得税法ハ大體ニ於テ遡源徴收ノ主義ヲ採用シタルニ過キサルモノト解スヘク而シテ額面超過

大藏省

額ハ必シモ之ヲ釀出シタル當該株主ノミノ利益ニ歸スルモノニ非ス他ノ株主ノ利得ニ歸スルモノナルハ勿論當該株主中ニ在リテモ釀出額ト利得額トノ損得必シモ互ニ相同シカラサルカ故ニ之ニ對シテ課税スルニ大體ニ於テ遡源徴收ノ主義ニ背戾スルモノト云フコトヲ得ス原告ノ此ノ論旨ハ理由ナシ又原告ハ額面超過額中法定準備金ニ組入ルヘキ部分ハ當該年度ノ成績如何ニ拘ラス之ニ組入ルルコトヲ要シ之ヨリ當該年度ノ損金ヲ控除スルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ損益計算ノ利益金ニ算入スルコトヲ得ス利益金ニ算入スヘカラサル利益ナルモノアリ得ヘカラサルヲ以テ少クモ此ノ部分ノ超過額ハ利益ニ非スト主張スルモ此ノ如キハ或種ノ所得ニ關シ特ニ其ノ處理ノ方途ヲ限定シタル場合ニ生スヘキ結果タルニ過キスシテ之カ爲額面超過額ノ性質ニ變更ヲ來スヘキモノニ非サルカ故ニ原告ノ此ノ主張亦採用セス



0000 0341
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

大蔵省

0000 0342

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp